



佐賀大学 (佐賀県)



アジアの中の日本、世界の中の日本、地域から見える日本を学ぶ

■大学紹介

① 大学の特色および概要

佐賀大学(さがだいがく)は、自然(しぜん)と共生(きょうせい)するための人類(じんるい)の「知」の創造(そうぞう)と継承(けいしょう)に努めて(つとめて)います。佐賀地域(ちいき)独自(どくじ)の研究(けんきゅう)を世界(せかい)へ発信(はっしん)しようとしています。そして、アジアの知的拠点(ちてききょてん)を目指し(めざし)、国際社会(こくさいしゃかい)に貢献(こうけん)しています。

(学 部)教育(きょうい)学部、
芸術地域(げいじゅつちいき)デザイン学部、
経済(けいざい)学部、
医学(いがく)部、
理工(りこう)学部、
農学(のうがく)部
学部生数 6,004名

(大学院)学校教育学(がっこうきょうい)研究科、
地域(ちいき)デザイン研究科、医学系(いがくけい)研究科、
工学系(こうがくけい)研究科、農学研究科(のうがくけんきゅうか)

大学院生数 852名



② 国際交流の実績

世界各国・地域の160大学と交流協定を締結しています。現在、本学には224名の留学生在籍しています。2009年度から2017年度までに大使館推薦の日本語・日本文化研修生をベトナム3名、リトアニア、スウェーデン、アルメニア、ベルギー、インド、ブラジル、セルビア共和国、トルクメニスタン各1名、大学推薦の日本語・日本文化研修留学生カンボジア1名、ラオス1名、リトアニア1名を受け入れています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績(5月1日現在)

2017年：留学生数 224人、うち日本語・日本文化研修留学生1人
2016年：留学生数 207人、うち日本語・日本文化研修留学生4人
2015年：留学生数 209人、うち日本語・日本文化研修留学生2人

④ 地域の特色

佐賀(さが)大学のある佐賀県(さがけん)は、九州(きゅうしゅう)の北西部(ほくせいぶ)に位置(いち)し、自然(しぜん)が美しく(うつくしく)、歴史(れきし)が豊か(ゆたか)なところです。メインキャンパスは佐賀市(さがし)にあります。佐賀市は、物価(ぶつか)が安く(やすく)、住み(すみ)やすい町(まち)です。気候(きこう)は温暖(おんだん)で、年間(ねんかん)の平均(へいきん)気温(きおん)は17度です。

春(はる)には、満開(まんかい)の桜(さくら)、夏(なつ)には、鮮やか(あざやか)な緑(みどり)と花火(はなび)を見ることが出来ます。また、秋(あき)には、黄金色(こがねいろ)の水田(すいでん)と、カラフルなパルーンが青い(あおい)空(そら)を舞う(まう)姿(すがた)があります。冬(ふゆ)には、ときどき、雪(ゆき)がふります。

佐賀の人々は国際(こくさい)交流(こうりゅう)に大変(たいへん)熱心(ねっしん)で、国際(こくさい)交流(こうりゅう)イベントに参加(さんか)出来ます。

また、佐賀(さが)は陶磁器(とうじき)でも非常に有名(ゆうめい)で、有田(ありた)、唐津(からつ)などの焼き物(やきもの)の産地(さんち)があります。



■コースの概要

① 研修目的

本コースは、日本語能力の向上(こうじょう)のための研修(けんしゅう)を主とし、補助的(ほじょてき)に日本事情・日本文化に関する研修を行うものです。ただし、専門的な研究をしたい場合は、お手伝いします。



② コースの特色

佐賀大学は、学生と先生がよくコミュニケーションできる大学です。本コースは、佐賀の美しい自然(しぜん)や心温かい人々といっしょに、日本社会や文化への理解を深め、日本語の能力(のうりょく)を伸ばす(のばす)ことができるコースです。

日本語>

本コースでは、研修生(けんしゅうせい)のレベルに合った日本語科目を履修(りしゅう)できます。また、日本語コースの中に、日本人学生ボランティアとの活動(かつどう)や地域(ちいき)での活動(かつどう)が組み込まれて(くみこまれて)いるので、実践的な(じっせんてき)日本語能力が身(み)につきます。

静かで歴史豊かな
佐賀の生活は
体験してみんしゃい



日本文化＋専門科目＞

必修(ひっしゅう)の日本事情研修(にほんじじょうけんしゅう)では、日本文化の講義(こうぎ)の他(ほか)、柔道(じゅうどう)や茶道(さどう)を体験したり、日本文化(にほんぶんか)の見学旅行(けんがくりょこう)をします。

インターフェース科目では、日本人の学生(がくせい)といっしょに、議論(ぎろん)をしたり、見学(けんがく)に行ったり、パンフレットを作ったりといった活動(かつどう)をします。

これらの授業によって、研修生は、より深い日本理解や日本語の実践的(じっせんてき)な能力(のうりょく)を身(み)につけることができます。

また、研修生の興味(きょうみ)や専門(せんもん)に応じた(おうじた)科目を受講(じゅこう)することができます。

学生生活＞

大学主催(しゅさい)留学生と日本人学生のための催し(もよおし)や、学生主催のパーティーが多く行われています。佐賀大学の学生と交流(こうりゅう)する機会が数多く設け(もうけ)られています。また、地域(ちいき)の学校や文化教室(ぶんかきょうしつ)の講師(こうし)などを行っている学生もいます。

③ 受入定員

14名(大使館推薦7名、大学推薦7名)

④ 受講希望者の資格、条件等

1) 主(しゅ)専攻(せんこう)が日本語、日本文化など日本に関する分野(ぶんや)である学部(がくぶ)学生。

2) 中級以上(ちゅうきゅういじょう)の日本語能力(にほんごのうりょく)を持っていること。(N2合格程度)



⑤ 達成目標

- ・日本語や日本文化について幅広い(はばひろい)知識(ちしき)を身につけること。
- ・日本社会に親しむ(したしむ)こと。
- ・自国で専門研究(せんもんけんきゅう)するための基礎能力(きそのうりょく)を養う(やしなう)こと。
- ・研修生の帰国後のキャリア選択(せんたく)に役立つ(やくだつ)実践的(じっせんてき)な日本語運用能力(にほんごうんようのうりょく)を身につけること。

⑥ 研修期間

2018年10月1日 ~ 2019年8月31日

I期: 2018年10月1日~2019年3月31日

II期: 2019年4月1日~2019年8月31日

修了式は8月を予定(2017年は8月)

⑦ 研修科目の概要

本コースで研修を受ける研修生は、全学教育機構および佐賀大学の各学部が開講する授業の中で、定められた「選択必修科目」「選択科目」を履修しなければなりません。

1) 選択必修科目(せんたくひっしゅうかもく)

| | 科目名 | 単位数と時間数 |
|--------|---------------------------|-------------|
| 選択必修科目 | 日本事情研修(にほんじじょうけんしゅう)AまたはC | 2単位(30時間) |
| | 日本事情研修BまたはD | 2単位(30時間) |
| | 日本語コース | 2単位(30時間) |
| | インターフェース科目 | 2単位(30時間) |
| | 研修生が興味がある科目 | 10単位(150時間) |

・受講科目(じゅこうかもく)を決めるときは、指導教員(しどうきょういん)やコーディネーターと相談(そうだん)してください。

・今までの研修生は、日本語や日本文学、言語学、日本の建築(けんちく)等に関する授業を受講しました。

*「日本語コース」のレベルは、プレースメントテストの結果で決めます。

*科目の名前などは変わることがあります。

なお、日本語の授業は全学教育機構から提供されています。

佐賀大学が提供(ていきょう)する授業について、詳しく(くわしく)知りたい人は、オンラインシラバスを参考にしてください。
<http://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>

2) 見学、地域交流等の参加型科目

短期留学生(たんきりゅうがくせい)といっしょに受講する日本事情研修(にほんじじょうけんしゅう)では、地域(ちいき)の歴史(れきし)・文化・産業(さんぎょう)を知るための学外見学(がくがいけんがく)をしたり、地域の日本人と交流したりできます。

また、インターフェース科目(異文化理解いぶんかりかい)では、日本人学生との交流や地域への貢献(こうけん)を授業の中心的(ちゅうしんてき)な活動(かつどう)に設定(せってい)しています。

3) その他

上記の科目のほか、指導教員(しどうきょういん)や全学教育機構(ぜんがくきょういくきこう)の教員(きょういん)の指導(しどう)のもと、レポート作成を行うことができます。



⑧ 年間行事

- 10月 開講式
オリエンテーション
新入留学生ウェルカムパーティー
- 11月 佐賀インターナショナルバルーン
フェスタ
日本文化体験研修旅行
- 12月 カルチュラルナイト
- 2月中旬～ 春休み
- 4月 春学期開始
日本文化体験研修旅行
- 5月 ガタリンピック
- 6月 日本文化体験研修
- 8月 夏休み
栄の国祭り
修了式
フェアウェル
パーティー



⑨ 指導体制

1) コースコーディネーター

全学教育機構外国人留学生教育部会
国際交流推進センター併任教員
准教授 中山 亜紀子
(E-mail: anakayam@cc.saga-u.ac.jp)

2) 研修生(けんしゅうせい)の日本での生活面(せいかつめん)に関して(かんして)は、本学(ほんがく)の保健(ほけん)管理(かんり)センターとの連携(れんけい)体制(たいせい)をとりながら、国際(こくさい)交流(こうりゅう)推進(すいしん)センターの専任(せんんにん)および併任(へいにん)教員(きょういん)が対応(たいおう)しています。

3) 研修生(けんしゅうせい)には、学生チューターが1名ずつつきます。学生チューターは、日常(にちじょう)生活(せいかつ)、勉強上(べんきょうじょう)のお手伝いや、日本人(にほんじん)学生(がくせい)と交流(こうりゅう)をするお手伝いをしてくれます。

⑩ コースの修了要件

日本事情(じじょう)研修(けんしゅう)を各(かく)学期2単位(たんい)、日本語コースから春学期・秋学期合(あ)わせて2単位以上、インターフェース科目(かもく)から2単位以上、佐賀大学の授業(じゅぎょう)の中から10単位以上が修了(しゅうりょう)のために必要(ひつよう)です。コースの修了者(しゅうりょう)に対し修了(しゅうりょう)証明書(しょうめいしょ)及び(および)成績(せいせき)証明書(しょうめいしょ)を発行(はっこう)します。

■宿 舎

大学(だいがく)の敷地内(しきちない)に留学生用(りゅうがくせいよう)の宿舎(しゅくしゃ)、国際交流(こうりゅう)会館(かいかん)があります。(単身室(たんしんしつ) 8,100円/月、夫婦室(ふうふしつ) 12,200円/月、家族室(かぞくしつ) 14,900円/月)

この他に、大学周辺(だいがくまわり)に留学生(りゅうがくせい)のための良質(りょうしつ)で家賃(やちん)の安いNPO法人国際下宿屋(こくさいげしゅくや)(月額2万円程度)や民間(みんかん)のアパートがあります。

(ちなみに、今までの研修生(けんしゅうせい)は、15,000~30,000円の冷蔵庫(れいぞうこ)、洗濯機(せんたくき)などのついた民間(みんかん)のアパートに入居(にゅうきょ)しました。



■修了生へのフォローアップ

佐賀大学に留学(りゅうがく)した研修生(けんしゅうせい)は、佐賀大学で学んだことを生かして(いかして)、母国(ぼこく)の日系(にっけい)企業(きぎょう)で働いたり、日本の大学院(だいがくいん)に進学(しんがく)したりしています。

修了(しゅうりょう)した研修生(けんしゅうせい)は、インターネットで佐賀大学やコーディネーターといつでも連絡(れんらく)することができます。

佐賀大学の学部(がくぶ)を卒業(そつぎょう)した留学生(りゅうがくせい)は、県内外(けんないがい)の企業(きぎょう)に就職(しゅうしょく)したり、母国(ぼこく)で就職(しゅうしょく)したり、また、佐賀大学や他大学の大学院(だいがくいん)に進学(しんがく)しています。有名な企業(きぎょう)で働いている卒業生(そつぎょうせい)もいます。



■問合せ先

(担当部署)

佐賀大学学術研究協力部国際課

住所 〒840-8502

佐賀県佐賀市本庄町1番地

TEL +81-952-28-8169(直通)

FAX +81-952-28-8819

E-mail ryugaku@mail.admin.saga-u.ac.jp

佐賀大学国際交流推進センター

<http://www.irdc.saga-u.ac.jp>

佐賀大学ホームページ

<http://www.saga-u.ac.jp>

日研生ホームページ <http://www.irdc.saga-u.ac.jp/ja/interest/jresearch.html>